

目 次

序	
目 次	
1 調査経過	3
2 中金堂の歴史	4
3 中金堂の建築	6
4 遺 構	8
4-1 中 金 堂	8
4-2 北 面 回 廊	22
4-3 中金堂周辺の遺構	22
5 遺 物	24
5-1 瓦	24
5-2 土器・陶磁器	26
5-3 金属製品・石製品・ガラス製品その他	28
6 結 語	30
6-1 主要な調査成果	30
6-2 考察と課題	31
報告書抄録	32

例 言

1. 本書は興福寺第1期境内整備事業にともなう平成12・13年度発掘調査概要報告書である。
2. 調査は興福寺の委託を受けた奈良文化財研究所（奈良国立文化財研究所）平城宮跡発掘調査部が、平成13年1月9日から平成13年10月3日にかけて実施した。
3. 調査は、川越俊一・館野和己・次山淳・内田和伸・西山和宏・清水重敦・豊島直博・馬場基・渡辺丈彦・市大樹が担当し、安村健（帝塚山大学大学院）・矢倉嘉人（帝塚山大学）・金倫廷（京都橘女子大学）が参加した。また、石材の鑑定は肥塚隆保・高妻洋成があたった。
4. 調査並びに本書の編集にあたっては、奈良県教育委員会・奈良市教育委員会の協力を得た。
5. 本調査は、平城宮跡発掘調査部の第325次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準に従い一連の番号を付した。発掘遺構図等の座標値は、国土方眼第VI座標系による。
6. 本書の作成は、当調査部長・金子裕之の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議をへて行った。各項の執筆分担は以下の通りである。

3 清水重敦、4-1 (9)・5-3 次山淳、5-1 渡辺丈彦、5-2 川越俊一、
1・2・4-1 (1)～(8)・4-2・4-3・6 馬場基

編集は馬場基が行った。遺構・遺物の写真は、牛鳴茂・中村一郎・杉本和樹が撮影した。